

## 日本紅斑熱患者の発生について

県内の医療機関から東部保健所福山支所に、本県において本年 35 例目（死亡例として 2 例目）となる日本紅斑熱の患者発生の届出がありました。

日本紅斑熱の感染源であるマダニは、春から秋にかけて活動が盛んになることから、報道機関の皆様におかれましては、感染予防策（マダニに咬まれない対策）の周知に御協力ください。

### 1 患者の概要

届出年月日：令和6年7月10日  
住 所：府中市内  
年代・性別：80代・女性  
症 状：発熱、発疹、血小板減少、肝機能異常等  
経 過：入院加療後、7月10日死亡  
推定される感染時の行動：畑で農作業をしていた  
そ の 他：マダニの刺し口あり（右足大腿）

### 2 患者確認に至った経緯等

7月7日 発症  
7月8日 県内の医療機関に入院  
7月9日 別の医療機関に転院、主治医が症状から日本紅斑熱を疑い、保健所へ検査依頼  
7月10日 検体提出、患者死亡  
県立総合技術研究所保健環境センターで遺伝子検査の結果、紅斑熱群リケッチア陽性  
7月11日 同センターで追加検査の結果、日本紅斑熱リケッチア陽性確定

### 3 日本紅斑熱について

#### (1) 日本紅斑熱とは

日本紅斑熱リケッチア (*Rickettsia japonica*) と呼ばれる病原体を持ったマダニ類に刺咬されることによって感染する病気です。ヒトからヒトへの感染はありません。

リケッチアを保有するマダニに咬まれて2～8日の潜伏期間後、頭痛、悪寒を伴い急激に高熱（38～40℃）が出た後、やや遅れて、全身に米粒大から小豆大の紅斑が出現します。発疹部にかゆみや痛みがないのが特徴です。

#### (2) 過去5年間の年別届出数

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
全国	422例	490例	457例	501例	165例 <sup>※1</sup>
広島県	94例	89例	89例	104例	35例 <sup>※2</sup>
(うち死亡)	(1)	(0)	(3)	(4)	(2)

※1：令和6年6月30日時点 ※2：令和6年7月11日時点、本事例を含む

#### (3) 感染予防策

マダニに咬まれないようにすることが重要です。

- ・屋外活動時は長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等の対策を取ることで、マダニが服や髪の中に入り込めないようにしましょう。
- ・屋外活動後は、体や服をはたき、マダニが体についていないか確認しましょう。
- ・吸血中のマダニを見つけた場合は、できるだけ医療機関で処置してもらいましょう。
- ・マダニに咬まれた後に、発熱等の症状があった場合は、直ちに医療機関を受診しましょう。
- ・マダニに咬まれていても気づかない場合があります。マダニの活動が活発な春から秋の暖かい季節に野外活動をする方は、日常的に、発熱等の体調に気を付けておきましょう。

#### お 願 い

報道機関各位におかれましては、感染症法の精神に基づき、患者及び患者家族等について、本人等が特定されることがないように、格段の御配慮をお願いします。